

「こおりやまの米」通信



GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「お米の日」



Vol. 6 令和7年産最終号（生育調査ほ場の結果）

* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。



編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (TEL. 024-921-0503)

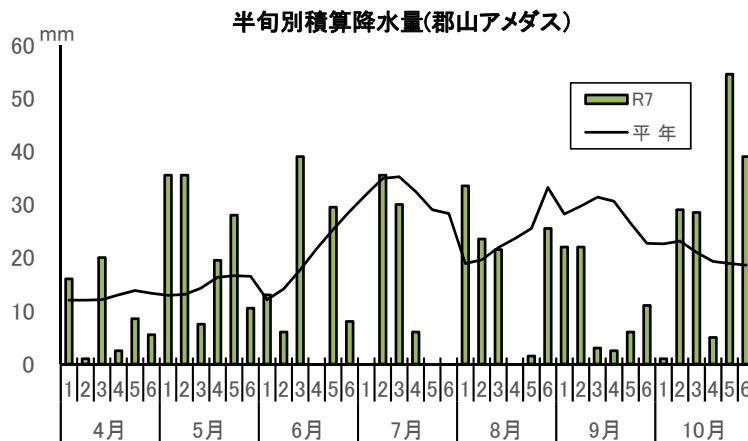
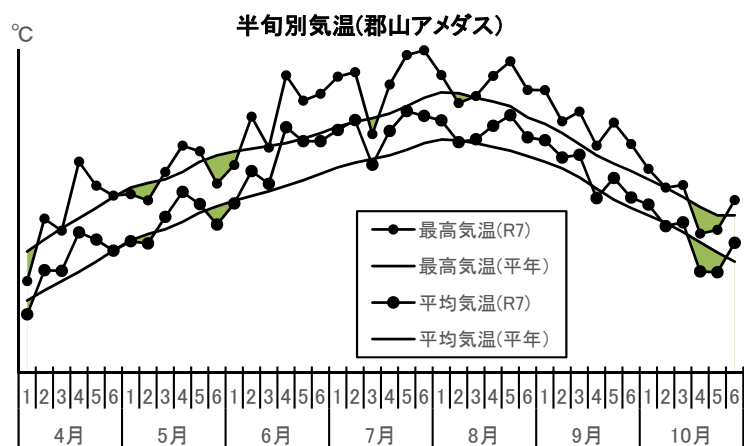
NOSAI福島中央支所 (TEL. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会
(郡山市園芸畜産振興課 TEL. 024-924-3761)

令和7年の米づくりをふりかえり、令和8年の作付けに備えましょう

1 気象経過



2 生育概況

【4月中旬～(育苗期)】

気温が平年並～やや高く経過したため、苗の生育は順調であった。もみ枯細菌病は平年より少なかった。

【5月(移植期)】

GW期間中はやや気温が低かったため、この時期に移植したほ場では植え痛みが散見されたが、回復して活着は良好であった。

【6月(分げつ期)】

気温は平年並～やや高く推移し、草丈は長く、葉色は濃かった。

【7月(最高分けつ期～幼穂形成期)】

気温が高く推移したため、茎数は平年より多く推移する等、生育は旺盛であった。そのため窒素の吸収が進み、葉色は淡く推移した。

幼穂形成期は平年に比べ1～5日早まった。下旬より斑点米カメムシ類が多く発生した。

【8月(出穂期)】

気温が高く推移し、出穂期は平年並～5日程度早まった。稈長は長く、㎡当たり穂数はほ場によりバラツキはあるが、平年並～やや多かった。

また、斑点米カメムシ類が多いほか、一部で穂いもち病が散見された。

【8～9月(登熟期～成熟期)】

出穂後の日平均気温は高く、平坦部では26℃以上の日もあり、白未熟粒や胴割粒の発生が懸念された。

登熟期間の高温により成熟期が早まり、登熟日数は平年に比べ7～10日程度短縮した。

稈長は平年並で、コシヒカリを中心に一部で倒伏が見られた。

3 収量・品質

ほ場によりバラツキはあるが、各展示ほの㎡収量は平年並で千粒重は重いことから、平年より多収となったほ場が多かった。

品質は、JA福島さくらの検査結果では、11月27日時点の1等米比率は92%(前年度88%)であった。

2等米以下に格付けされた主な理由は、カメムシ類による着色粒や刈り遅れによる胴割れが多かった。

登熟期間の気温は高温で推移したが、各生産者の高温対策の取組や降水量が多かったことなどにより、白未熟粒の発生は少なかった。

4 生育調査ほの収量と収量構成要素

品種 (地区)	年次	穂数 (本/㎡)	籾数/㎡ (×100粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)
コシヒカリ (田村)	R7	383	300	85.2	22.8	556
	平年	337	260	87.2	22.0	622
コシヒカリ (三穂田)	R7	397	322	87.9	22.0	583
	平年	411	308	82.6	22.1	601
天のつづ (三穂田)	R7	454	332	91.2	23.2	751
	平年	426	344	90.6	22.6	726
ひとめぼれ (熱海)	R7	371	249	92.7	22.8	595
	平年	319	242	85.2	22.5	522
里山のつづ (湖南)	R7	443	374	92.1	24.2	899
	平年	446	358	86.8	23.2	816
コシヒカリ (富久山)	R7	297	258	79.8	21.8	558
	平年	292	309	82.8	21.7	545
ふくひびき (喜久田)	R7	331	362	84.9	23.8	735
	直近4ヶ年	335	348	78.2	23.7	713
ひとめぼれ (喜久田)	R7	489	367	77.6	21.9	719
	平年	413	300	84.2	22.6	671
天のつづ 直播(日和田)	R7	552	333	86.1	22.2	567
	平年	421	358	80.5	22.1	635
コシヒカリ (日和田)	R7	338	281	79.5	21.9	596
	平年	381	332	78.2	21.3	592

精玄米重は50株刈り取りから算出した。㎡当たり籾数や登熟歩合は3株調査
ですので一致しない場合があります。

5 令和8年の稲作に向けて

(1) 土づくり等による高温対策

各生育調査ほ場の土壌分析を実施したところ、多くのほ
場でケイ酸や有機物が不足している事がわかりました。

高温等の気候変動に負けない稲作のため、土づくりで
根の活力を増進できます。

＜高温対策のポイント＞

◎根の活力増進

秋耕、堆肥施用、心土破砕や深耕 など

◎生育後半まで光合成が維持される施肥管理

堆肥やケイ酸資材の施用、葉色に応じた出穂期追肥

◎生育期間中の水管理

適期の中干し、出穂期以降の飽水管理 など

(2) 病害対策

育苗期の高温により、もみ枯細菌病が増加傾向です。
育苗器やハウス内の温度管理を徹底し、未消毒種子を
用いる場合は必ず種子消毒を実施してください。

(3) 雑草対策

除草剤散布後のヒエ等が残るほ場が散見されますの
で、発生程度に応じ、中・後期剤を組み合わせた体系防
除を実施してください。

(4) 放射性セシウムの吸収抑制対策

土壌中のカリ含量を維持することが重要です(目標
25mg/乾土100g)。カリ含量低下が懸念される砂質土壌
やわら持ち出し田では、カリ肥料の上乗せや堆肥投入を
検討してください。

農業機械の点検整備をしましょう！

令和6年中に福島県内で発生した農作業死亡事故
は6件で、いずれも農業機械によるものでした。

普段からほ場や進入路、農道の危険箇所を確認し、
事故の未然防止を心掛けてください。

また、農業機械のメンテナンス中に、
作業機に巻き込まれ大怪我になる場合
がありますので、作業を行うときは必ず
エンジンを切ってください。



「みどり認定」の紹介

「みどりの食料システム法」に基づき、化学肥料・農薬
の使用低減などに取り組む農業者の認定制度「みどり
認定」がスタートしています。

設備投資の際の税制優遇や様々な国庫補助金の採
択で優遇されるなどのメリットがあります。エコファーマー
の取組を継続する方も、「みどり認定」

を申請する必要があります。

詳しくは、県中農林事務所農業振
興普及部に御相談ください。



〈県HP〉

需要に応じた米生産にご協力をお願いします

令和7年産は米価が大幅に上昇しましたが、米価の安
定のためには、引き続き需要に応じた米生産に御協力
をお願いします。

【転換作物の例】

- ①大豆、そばなどの畑作物、園芸作物等
- ②飼料用米、備蓄米、加工用米、輸出用米

【交付金の制度活用】

転換作物に取り組む場合は、水田活用の直接支払
交付金や経営所得安定対策(ゲタ対策)などの様々な
制度が活用できます。

【飼料用米は多収品種で取り組む】

飼料用米に取り組む場合、一般品種では令和7年産
以降、交付単価が段階的に引き下げられます。収入確
保のため、「ふくひびき」などの多収品種で取り組むこと
が有効です。

収入保険制度の活用

加入には青色申告の実績が必要なため、白色申告
の方は令和8年3月15日までに税務署に「青色申告承
認申請書」を提出し、青色申告に切り替えてください。

問い合わせ先

青色申告・・・郡山税務署 ☎024-932-2041

申告支援・・・JA福島さくら各支店・営農経済センター

収入保険・・・NOSAI福島中央支所 ☎024-933-3307